

大学教育連携センター・サテライトオフィス 担当者会議

平成21年度

第1回 平成22年 8月28日(金)

第2回 平成22年10月20日(火)

平成21年8月28日

第1回 大学教育連携センター・サテライトオフィス担当者会議

日時 平成21年8月28日（金） 14:00～16:00

場所 岡山理科大学 大会議室（本部3階）

参加者 岡山理科大学： 木村 宏，大西 荘一，竹内 渉，岡田 章弘，金子 典正，
御倉 賀恵，佐藤 大介
岡山大学： 橋本 勝，中野 宏栄，箕島 素子
中国学園大学： 飯田 哲司，新谷 貴子
岡山商科大学： 大崎 紘一，中村 裕

1. 議案

(1) 「岡山オルガノン」の本年度計画について

(2) 組織について

① 各サテライトオフィスの立ち上げ

② 各種運営委員会の構成

(3) 本年度の各事業の進め方について

(4) その他

2. 報告事項

(1) 文部科学省関係 経過報告と今後の予定

- ① 7月27日（月） 平成21年度大学改革推進等補助金調書提出
- ② 8月5日（水） 平成21年度大学改革推進等補助金調書変更版提出
- ③ 8月7日（金） 平成21年度大学改革推進等補助金調書修正版提出
- ④ 8月13日（木） 補助金額（8350万円）の内定
- ⑤ 8月20日（木） 事業概念図提出
- ⑥ 8月27日（木） 平成21年度大学改革推進等補助金交付申請書提出
- ⑦ 9月18日（金） 文部科学省へ提出〆切日 協定書（15大学の学長が捺印したもの）
大学間の共同契約書（各理事長が捺印、文部科学省には提出なし）

(2) 交付金申請書

(3) その他

3. 添付資料

- (1) 平成 21 年度大学改革推進等補助金調書
- (2) 文部科学省へ提出した事業概念図

1. 「岡山オルガノン」の本年度計画について

本補助事業の本年度の目的は、上記 3 つの力の育成を図るため、まずは大学連携を円滑に進めるための組織体制を整え、シンポジウム開催、専門家チーム編成、単位認定制度確立等により、関係機関に対して事業内容の周知徹底を図ることである。また本事業推進に不可欠であるインフラ整備、テレビ会議システムの試行運用、ICT 活用教材作成講習会実施を繰り返し実施し、次年度以降の本格的な事業展開に向けた準備を行う。

(1) 本年度の補助事業実施計画

本年度の補助事業の目的を達成するため、

■共通計画（組織基盤）

- ① 10 月初旬 代表校に「大学教育連携センター」および 3 大学に「サテライトオフィス」、また「岡山オルガノン代表者委員会」の設置
- ② 11 月 29 日（日）大学教育連携センター設立記念シンポジウム「ハッシン！岡山オルガノン（仮称）」の開催
- ③ 12 月 「連携評価委員会」の設置、3 月に連携評価委員会を開催し、評価報告書を作成
- ④ 1 月 平成 21 年度「大学教育改革プログラム合同フォーラム（仮称）」へ参加

■インフラ整備計画

- ⑤ 9 月以降 次年度以降の遠隔教育の単位認定の制度化と単位互換協定締結の準備（年内に締結（学則変更を伴う対応が求められる可能性があるため、早期に制度化を進める必要がある。）
- ⑥ 10 月以降 ネットワーク、サーバ、コンテンツ管理およびパソコン設置に係る業者の決定、2 月以降に e-Learning 用パソコンの設置調整
- ⑦ 12 月 ライブ教育配信用のテレビ会議システムの整備、1 月以降に試行運用の開始（9 月～10 月初旬に業者選定を終え、まずネットワークインフラの構築に着手）
- ⑧ 1 月 ICT 活用教材作成講習会の実施、次年度配信用コンテンツの作成（次年度前期に開講する科目は 12 月に決定、下記⑩）

■学士力育成のための計画

- ⑨ 9 月 22 日（火）～23 日（水）FD 研修事業「i*See 2009」の共催
- ⑩ 10 月 「吉備創生カレッジ」に対して共同 SD 活動事業の委託内容の検討
- ⑪ 11 月 各大学における教養教育配信科目の検討及び候補の決定、12 月に教養教育配信科目の検討・協議・決定
- ⑫ 1 月下旬 共同 FD・SD シンポジウムの開催、11 月頃より共同 FD・SD 担当者会議の開催

■社会人基礎力育成のための計画

- ⑬ 11 月 実践的キャリア指導チームの組織化、1 月に実践的キャリア指導チーム会議の開催
- ⑭ 2 月 キャリア形成講座の発展型事業の委託

■地域発信力育成のための計画

⑮ 10月以降 ボランティアプロフェッサおよびコーディネート科目内容の検討会議の開催、1月以降に配信コンテンツの作成

⑯ 2月 セタエコナイトおよび地域活性化シンポジウム準備会議の開催

(2) 補助事業の内容(上記の実施計画と対応)

■共通計画(組織基盤)

① 本取組を円滑に行うため、「大学教育連携センター」を岡山理科大学に設置し、全体を統括すると共に、ICT環境の整備、定期的な現状把握視察、ホームページ作成、広報宣伝活動を行う。また、サテライトオフィスを岡山大学(学士力担当)、中国学園大学(社会人基礎力担当)、岡山商科大学(地域発信力担当)に設置し、学生支援や事業管理等を担当し連携校の役割分担を決定し、大学連携推進を図る。各サテライトオフィスにコーディネータを採用する。内部監査組織として基本計画の確認と具体的進行策を検討する「岡山オルガノン代表者委員会」を設置する。

② 学生や地域住民、大学教職員が共同で参画できる事業実施を目指して、大学教育連携センター設立記念シンポジウム「ハッシン!岡山オルガノン(仮称)」を開催し、本取組を広く認知してもらおう。同時に、**広報用パンフレットを作成**し多方面への配布に取り組む。

③ 外部評価組織として本取組の内容や成果に関する評価報告書を作成し、必要に応じて改善要求や助言指導等を実施する「連携評価委員会」を組織する。そのため委員は広く県内外から有識者を選出し依頼する。

④ 文部科学省主催の平成21年度「大学教育改革プログラム合同フォーラム(仮称)」へ積極的に参加し、本取組に関する情報提供及び収集に努め、今後の戦略的大学連携支援に活用する。

■インフラ整備計画

⑤ 連携校のe-Learning担当者会議を開催し、各大学の実施状況を把握し必要に応じて次年度以降本格導入する遠隔教育(ライブ方式・VOD方式のe-Learning)の単位認定の制度化と単位互換協定締結のための準備を進め、年内の締結を予定している。

⑥ 学生が自宅にしながらVOD方式によるe-Learningに取り組むためのコンテンツサーバやそのネットワークの管理者、また各大学が導入するe-Learning用パソコンの設置業者を決定し、年度末までに設置を終える。

⑦ 次年度以降のライブ方式の遠隔授業の本格運用に向けて、テレビ会議システムを各大学に導入する。多地点装置(全大学を同時に接続可能にする装置)は次年度導入予定となっているので、本年度は5大学単位のグループ間でのライブ方式による遠隔教育の試験的運用を繰り返し実施する。

⑧ 教職員に対してe-Learning活用法やVOD教材作成法の講習会を開き、その手法や取組における必要性について学習する機会を設ける。またコンテンツを作成するためのチーム編成、必要な機材の調達等、持続可能な体制を整備する。

■学士力育成のための計画

⑨ FD研修事業として岡山大学主催のFD活動である教育改善学生交流「i*See 2009」を共催する。連携校の教職員・学生に対してこれへの積極的参加を促し、「学生参画」による教育改善システムへの理解と展開を図る。

⑩ 共同SD活動の山陽新聞社と大学コンソーシアム岡山が共同で実施している「吉備創生カレッ

ジ」の特別科目（SDに特化した科目）の成果を検証し、次年度以降の業務委託の準備を行う。

- ⑪ 教養教育科目を共有化するために ICT を活用した授業配信に向けて、各大学は独自の特徴を出しながら教養教育科目を 1～2 科目提供のための準備に入る。本年度はそのうち全体で 2～3 科目の作成を行い、次年度の公開に備える。
- ⑫ 本取組における共同 FD・SD の活動内容についてのシンポジウムを開催、連携校全体の教育手法の改善に役立てる。シンポジウムでは、各大学の取組事例を公開してもらい、連携校の現状把握を行い、改善に向けた議論を行う。また、連携校のそれぞれの担当者による会議を開催し、共同 FD 活動では学生参画型教育改善、教員同士が相互に公開授業参観・授業評価の導入、共同 SD 活動では次年度以降の SD 研修会の企画・立案にあたる。

■社会人基礎力育成のための計画

- ⑬ 地域におけるキャリア指導のプロフェッショナルを集結させたチームを組織化し、全県でキャリア形成教育体制を構築する。このキャリア指導チームの編成は産学官からの地域人材を積極的に活用・登用する。1 月には⑭に関する講座内容についての検討会議を開催する。
- ⑭ 次年度以降のキャリア形成講座に対して、⑬で組織化されたチームによる実践的体験型プログラムの強化を図り、各大学が現在取り組んでいるキャリア教育の支援を行う。

■地域発信力育成のための計画

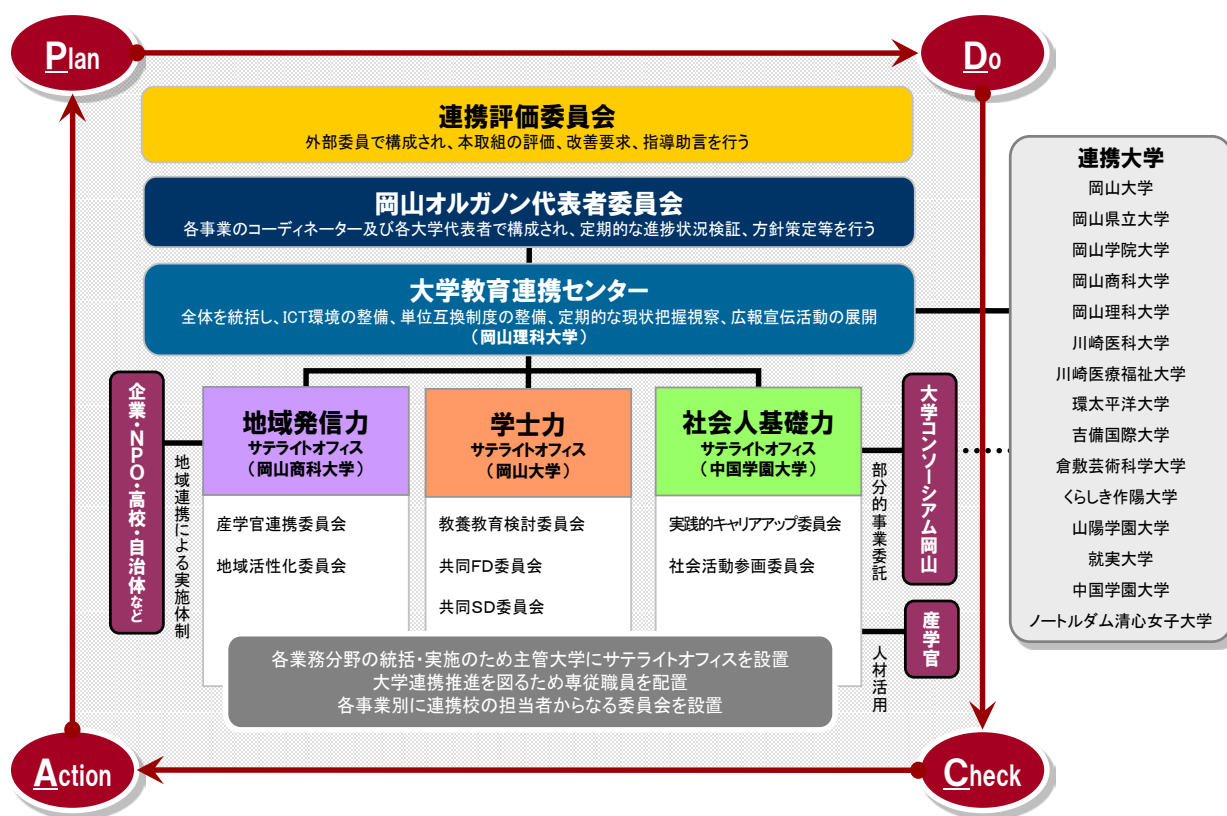
- ⑮ 企業の経営者等を大学に講師として派遣する「ボランティアプロフェッサ科目」をライブおよび VOD 方式の遠隔授業として連携校へ提供するための準備会議を開催する。また岡山経済同友会等の県内産業界等と協力して専門的職業（例：弁護士、税理士、司法書士、社会保険労務士等）を持つ外部人材を活用したコーディネート科目の構築を進める。ボランティアプロフェッサ科目の次年度以降の本格運用に向けて、岡山商科大学で実施する授業の配信を試験的に行う。
- ⑯ 次年度以降の産学官連携のエコ啓発のための環境教育実践活動である「七夕エコナイト」事業や地域住民との交流活動の推進を図る「地域活性化シンポジウム」開催に向けた内容に関して地域発信へつなげるための戦略について検討する準備会議を開催する。

(3) 補助事業から得られる具体的な成果（上記の補助事業の内容と対応）

詳細は、補助金調書の該当部分を参照してください。

2. 組織について

「岡山オルガノン」の組織は下図のように設定している。



(1) 大学教育連携センター

設置場所：岡山理科大学

目的： 事業全体の統括、経理事務処理の統括、ICT 環境の整備、定期的な現状把握視察、e-Learning 教育の実施、広報宣伝活動、事業報告書の作成

構成： センター長、副センター長、コーディネータ（若干名）、事務補佐員（若干名）

運営委員会： e-Learning 運営委員会

(2) 学士力サテライトオフィス

設置場所：岡山大学

目的： 共同 FD 活動、共同 SD 活動、教養教育の充実と共有化に関する活動、担当事業報告書の作成

構成： 代表者、コーディネータ（若干名）、事務補佐員（若干名）

運営委員会： 共同 FD 委員会、共同 SD 委員会、教養教育検討委員会

(3) 社会人基礎力サテライトオフィス

設置場所：中国学園大学

目的： 実践的キャリア教育指導者の育成、キャリア形成教育の共同実施、学生の社会活動参加支援、担当事業報告書の作成

構成： 代表者、コーディネータ（若干名）、事務補佐員（若干名）

運営委員会： 実践的キャリア教育委員会、社会活動参画委員会

(4) 地域発信力サテライトオフィス

設置場所：岡山商科大学

目的： ボランティアプロフェッサー科目の提供、産学連携コーディネーター科目の構築、地域活性化・環境教育の創出、担当事業報告書の作成

構成： 代表者、コーディネーター（若干名）、事務補佐員（若干名）

運営委員会： 産学官連携委員会、地域活性化委員会

(5) 大学教育連携センター・サテライトオフィス担当者会議（事業推進検討会議）

目的： 岡山オルガノン事業に関する企画・調整、年次計画の検討

開催： 必要に応じて開催（年3～4回）

構成： 大学教育連携センター構成員、各サテライトオフィス構成員、委員会が必要と認めた者

(6) 岡山オルガノン代表者委員会

目的： (5)の代表者会議から提出された議案の審議、事業の定期的な進捗状況の検証、事業全体の方針策定

開催： 年2回程度

構成： 各連携大学の代表者、各サテライトオフィスのコーディネーター、大学教育連携センター長、委員会が必要と認めた者

(7) 連携評価委員会

目的： 本事業の取組状況および成果の評価、必要に応じて関係者への実情調査、大学連携センターへの改善要求や助言指導

開催： 年1回程度（年度末）

構成： 有識者（産学官の外部委員）、各連携大学（学長など）、委員会が必要と認めた者

(8) コーディネーター連絡会議

目的： 事業進捗に必要な情報交換

開催： 1回/月

構成： 大学教育連携センターおよび各サテライトオフィスのコーディネーターと事務補佐員、その他の関係者

(9) 各種実務担当者会議

目的： 個別案件に関する臨時の関係者会議

開催： 必要に応じて大学教育連携センターが召集して開催

種類： 経理担当者会議、学務・教務担当者会議、ネットワーク担当者会議

3. 本年度の各事業の進め方

(1) 組織作り

前節の各組織および運営委員会の設置

- ・ 7月 24日 第1回大学連携準備会議
- ・ 8月 28日 第1回大学教育連携センター・サテライトオフィス担当者会議
- ・ 9月初旬 大学教育連携センター立ち上げ
- ・ 9月末 各サテライトオフィス立ち上げ
- ・ 10月初旬 岡山オルガノン代表者委員会開催
- ・ 10月末 各運営委員会の立ち上げ
- ・ 12月 連携評価委員会立ち上げ
- ・ 3月 連携評価委員会開催

(2) 大学教育連携センター設立記念シンポジウム（ハッシン！岡山オルガノン（仮称））の開催

- ・ 日時 11月29日(日) 13:00～16:00
- ・ 場所 岡山県総合福祉会館大ホール（450名収容）
〒700-0813 岡山市北区石関町2-1 TEL(086)226-3501
- ・ 内容
 - ・ 「岡山オルガノン」の概要説明（15分）
 - ・ 連携校の紹介（45分）
 - ・ 県内大学の優れた取組事例紹介（40分）
 - 加計グループ大学： 加計教育コンソーシアムによる遠隔授業
 - 岡山大学： 学生参画によるFD活動
 - 岡山商科大学： 産学官連携教育科目「ボランティアプロフェッサ」
 - 中国学園大学： 「キャリア形成講座」
 - ・ 特別講演（60分）
 - 前年度採択戦略GP（大学コンソーシアム石川）
 - 今年度採択戦略GP（岐阜県、福島県）
 - 今年度選定委員会（北原委員長）
 - 著名人（ ）

(3) 共同FD・SDシンポジウムの開催

- ・ 日時 平成22年1月23日（土）
- ・ 場所 未定
- ・ 内容
 - ・ 連携大学のFD活動の事例報告（岡山大学、 、 ）
 - ・ 連携大学のSD活動の事例報告（岡山理科大学、 ）
 - ・ 特別講演
前年度連携GP採択校（愛媛大学）

(4) 各運営委員会の立ち上げ

- ・ 10月中に各運営委員会のメンバを確定させる。

- ・各連携校は必ずどれかの運営委員会に参加し、事業推進に向けた取組に協力する。

(5) 各サテライトオフィスの立ち上げ

- ・9月中には各サテライトオフィスを立ち上げる。
- ・コーディネータおよび事務補佐員の採用については、各大学の判断に任せる。

(6) TV 会議システムの導入

- ・HD 対応のカメラとコントローラ (SONY PCS-XG80) を機種指定で認可されているので、導入は大学教育連携センターの主導で行う。また、Bフレッツを用いた VLAN による閉じたネットワーク環境を用いるシステム構成を想定しているため、業者選定は大学教育連携センターで行い、実契約は各連携校単位で行う方式を採用する予定である。
- ・別途、各大学は運用経費負担が発生することを了解していただきたい。
B フレッツ回線使用料+IP-VPN サービス利用料=9,200 円+3,740 円=12,940 円/月
- ・12月までに各連携校への導入を終え、1月にはライブ授業の配信実験を行う。

(7) e-Learning 教育の実施準備

- ・9月中に単位互換協定の締結準備と、遠隔授業による単位認定制度の導入を各連携校に依頼を出す。
- ・10月にコンテンツサーバおよび LMS 実行サーバの管理業者を決定する。
LMS は MOMOTARO (岡山理科大学開発システム) とする。
- ・10月中旬に次年度配信する VOD 教材を選定する。
加計教育コンソーシアムより 1~2 科目の提供を受ける。
新規に 1~2 科目の選定を行う。
- ・1月~3月に各連携校で e-Learning 受講講習会を実施する。

(8) 遠隔授業用のパソコンの導入

- ・共通の基本仕様を大学教育連携センターで決定する。その後、各連携校が導入可能業者に連絡し、提案書および見積書を提出させ、審査して導入業者を決定する。したがって、パソコンの導入業者は各連携校の判断に任せる。
- ・2月中には設置・導入を終え、3月中には遠隔授業の受信実験を行う。

(9) VOD コンテンツ作成

- ・10月中にコンテンツ作成方式を決定する。
外部委託方式
学生主体のコンテンツ作成グループを組織し、技術指導を行い、コンテンツ作成する方式
- ・11月には新規教材の作成を開始する。

第1回 大学教育連携センター・サテライトオフィス担当者会議 議事録

日 時：平成21年8月28日（金） 14:00～16:00

場 所：岡山理科大学 大会議室（本部3階）

参 加 者：岡山理科大学 木村宏、大西荘一、竹内渉、金子典正、御倉賀恵、佐藤大介
岡山大学 橋本勝、中野宏栄、冨島素子
中国学園大学 飯田哲司、矢部幸一、藤井守雄
岡山商科大学 中村裕、小笠原等

1 議事録

配布資料にある議案（別紙参照）に従い、木村より説明があった。

- （1）平成21年度計画の概要説明がなされ、これまでの交付金申請や取組事業概念図等に関する経過報告を行った後、今後の日程等について連絡を行った。
- （2）組織について各サテライトオフィスおよび各委員会、また各種担当者会議について説明した。
- （3）本年度の事業の進め方については、11月29日開催の大学教育連携センター設立記念シンポジウムの内容案を示し、取組事例や特別講演についてはサテライトオフィスから提案を募集することとした。大西より単位認定方式の明確化するべきとの指摘があった。

2 質疑応答

（1）人事に関する質問

[中国学園] コーディネーターの勤怠管理の方法は？各大学で統一してはどうか？

[岡山理科] 出退管理は自己申告で行う。¥2,000/hで考えている。

[岡山大学] 特別契約職員で契約をしている。

[岡山商科] 派遣で対応する。

[中国学園] 時間単価は代表校と同様に決めていってはどうか。

（2）サテライトオフィスの名前について

[中国学園] 3つの力が大学コンソーシアム岡山の各事業部と混同してしまうのでは？

[岡山理科] 大学コンソーシアム岡山の事業部名変更は可能性として考えられる。

[岡山大学] 各力は色々包含し重複する部分などがあるので、「サテライトオフィス1、2、3」などにしてはどうか？

[岡山理科] 9月9日までにメールでセンターまで名前案を募集する。

3 その他の事項

岡山大学より10月27日に樋口雄一先生の講演会がある旨報告があり、各連携校でのイベントを共有・情報提供が可能な体制作りについて提案があり、了承された。



第2回大学教育連携センター・サテライトオフィス担当者会議

- 1 日 時 平成21年10月20日(火) 15:30~17:30
- 2 場 所 岡山理科大学 第1会議室(9号館3階)
- 3 参 加 者 センターおよび各オフィス 代表者、コーディネーター、事務補佐(事務担当)
- 4 議 題 案
 - (1) 運営委員会について
 - ①各オフィス設置の委員会について
 - ②各大学からの委員募集について
 - (2) 大学教育連携センター設立記念シンポジウムの開催について
 - ①シンポジウム名称について
 - ②特別講演の講師について
 - ③連携校の優れた取組事例紹介について
※タイトルおよび発表者は10月30日までに連絡してください
 - ④業務内容・役割分担について
 - ⑤学長の出席および動員について
 - (3) 平成21年度大学教育改革プログラム合同フォーラムについて
 - ①出展について
 - ②各大学教職員の動員について
 - (4) その他
 - ①学生アルバイトの謝金・給与単価について

5 出席者一覧

大学名	職名	氏名
岡山大学	教授	橋本 勝
	主査	石井 利明
	専門職員	簗島 素子
岡山商科大学	産学官連携センター長	大崎 紘一
	コーディネーター	矢延 里織
	事務補佐	荒木 智子
中国学園大学		※都合により欠席
岡山理科大学	大学教育連携センター長	木村 宏
	総合情報学部教授	竹内 渉
	学外連携推進室次長	金子 典正
	コーディネーター	佐藤 大介
	事務補佐	大本 勝子

第2回大学教育連携センター・サテライトオフィス担当者会議 議事録

日 時：平成21年10月20日（火）15：30～16：45

場 所：岡山理科大学 第1会議室（9号館3階）

出席者：岡山大学 橋本勝、石井利明、簗島素子

岡山商科大学 大崎紘一、矢延里織、荒木智子

中国学園大学 欠席

岡山理科大学 木村宏、竹内渉、金子典正、佐藤大介、大本勝子

議 案：

1. 運営委員会について

木村センター長より、配布資料「第2回大学教育連携センター・サテライトオフィス担当者会議 資料（P1～2）」に基づき説明がなされた。

（1）各オフィス設置の委員会について

・各種運営委員会の設置案が示され、以下の質疑応答の後、了承された。

（2）各大学からの委員募集について

・共同FD委員会、教養教育・単位互換委員会、双方向コンテンツ委員会の3つの委員会は全連携校から委員を選出してほしい旨の発言がなされ、了承された。

・委員の募集は、資料2ページの「担当者連絡票」を参考に、各サテライトオフィスが各連携校に対して行う旨の説明がなされ、了承された。

・委員確定後、大学教育連携センターへ委員名簿を提出すること、大学教育連携センターで作成したメーリングリストは各サテライトオフィスで管理することの2点について依頼がなされ、了承された。

【質疑応答】

岡山大学	教養教育・単位互換委員会は、現時点で行われている大学コンソーシアム岡山の単位互換との関係はどうなるのか。
岡山理科大学	大学コンソーシアム岡山は独立した別組織である。 教養教育・単位互換委員会は、各連携校が参加できる教養教育、VOD教材として発信していく新しいタイプの科目構築を考えている。
岡山大学	教養教育・単位互換委員会と双方向コンテンツ委員会とは内容が重なるのではないか。
岡山理科大学	双方向コンテンツ委員会は、ボランティア・プロフェッサと岡山の2科目の配信とシステム運用を中心とした委員会にしようと考えている。
岡山商科大学	双方向コンテンツに関係する委員会は、学則変更など全連携校に関

	<p>係することなので、早く人選を行い、こちらから学則の雛形等を渡して変更依頼をする必要があるのではないか。また、第1回目の会議からカリキュラムの時間割も含めた具体的な話し合いをする必要があると思う。</p> <p>12月初旬に山陽新聞社社長が来学されるので、その際にトライアルを行えればと思っているので予定を考えておいてほしい。</p>
岡山理科大学	委員会が立ち上がるまでは、担当者会議を開催して実務者で話し合うことも考えているが、双方向コンテンツに関係する委員会は早く人選を行って立ち上げたいと思う。
岡山商科大学	文科省の産学官連携委員会を双方向コンテンツ委員会にしてもよいか。
岡山理科大学	構わない。
岡山商科大学	共同FD委員会、共同SD委員会、教養教育・単位互換委員会の3つは、委員が同じでも構わないのではないかと。
岡山理科大学	構わないが、委員の方が余りオーバーロードにならないようにはお願いしたい。
岡山商科大学	文部科学省の大学設置基準と第1回ネットワーク担当者会議資料5ページの参考部分を参考に学則変更を行うよう、各連携校の学長あてに依頼するという方法でもよいのではないかと。
岡山理科大学	そういう方法も考えられると思うので、今後検討する。

2. 大学教育連携センター設立記念シンポジウムの開催について

佐藤コーディネーターより、配布資料「第2回大学教育連携センター・サテライトオフィス担当者会議 資料（P3～6）」に基づき説明がなされた。

(1) シンポジウム名称について

- ・「ハッシン！岡山オルガノン」（仮称）の「ハッシン」は、「発進」と「発信」の2つの意味が込められている旨の説明がなされた。
- ・「ハッシン！岡山オルガノン」という名称でよいか確認がなされ、了承された。

(2) 特別講演の講師について

- ・特別講演の講師を立命館大学教授木野茂氏にお願いしたい旨の提案がなされた。
- ・橋本教授より立命館大学教授木野茂氏の略歴が紹介され、了承された。

(3) 連携校の優れた取組事例紹介について

- ・サテライトオフィス設置校より発表者を選定し、10分ほどの取組事例紹介をしてほしい旨の説明がなされ、了承された。
- ・題目は、岡山理科大学は「e-Learning」を、岡山大学は「学生参画型FD活動」を、岡山商科大学は「産学官連携教育」を、中国学園大学は「キャリア教育」を予定している旨の説明がなされた。橋本教授より、特別講演と内容が重なる場合は岡山大学の題目を

変更してもよいのではとの意見がなされ、了承された。

- ・題目及び発表者連絡先は10月30日までに、発表調書は資料6ページの発表調書(案)を参考に11月10日までに大学教育連携センターに提出する旨の依頼がなされた。

(4) 業務内容・役割分担について

- ・当日の受付・誘導係に、サテライトオフィス設置校から各1～2名の職員を派遣してほしい旨の要請がなされ、了承された。なお、派遣者名簿は11月20日までに大学教育連携センターに提出するよう依頼がなされた。

(5) 学長の出席および動員について

- ・サテライトオフィス設置校の全学長に出席していただきたい旨の提案がなされ、了承された。
- ・サテライトオフィス設置校には、特に動員協力してほしい旨の要請がなされた。橋本教授より、目標動員数はその質問がなされ、木村センター長より、各大学20名程度で考えているとの回答がなされた。

(6) その他

- ・後援団体が多いと申請書類の作成手続等が煩雑なので、資料4ページに記載している後援数を大学教育連携センターの方で調整してもよいか意見が求められ、了承された。大崎副学長・産学官連携センター長より、岡山経済同友会は岡山県経済団体連絡協議会に含まれているので、そちらの後援はどうするのかとの質問がなされ、木村センター長より、今後検討するとの回答がなされた。

3. 平成21年度大学教育改革プログラム合同フォーラムについて

佐藤コーディネーターより、配布資料「第2回大学教育連携センター・サテライトオフィス担当者会議 資料(P7)」に基づき説明がなされた。

(1) 出展について

- ・平成22年1月7日、8日に開催される「大学教育改革プログラム合同フォーラム」に、岡山オルガノンとしてポスターセッション等での参加を考えているとの報告がなされた。

(2) 各大学教職員の動員について

- ・サテライトオフィス設置校の予算には大学教育改革プログラム合同フォーラム参加旅費として2名分の旅費が計上されているが、2名以外の旅費は各大学で負担してもらう旨の報告がなされた。

4. その他

- ・木村センター長より、学生アルバイトの時給が資料整理作業補助は720円、連携事業推進補助は800円で申請して採択されているが、それに合わせてよいかとの確認がなされ、了承された。
- ・佐藤コーディネーターより、テレビ会議システムの進行状況について報告がなされた。
- ・橋本教授より、岡山大学サテライトオフィスのコーディネーターは12月1日より、事務補佐員は11月中旬より着任予定であるとの報告がなされた。